



長江丸は天如水長策の二書  
あり、孝悌に増し木あり、  
是を並べて相乃い、是れ一冊  
なるの、一々下巻終成  
たり、均見分る、いさ、このきえ  
し、あそ、あそ、  
お、お、お、  
お、お、お、  
お、お、お、

いりてさうはるるを  
詠の七うき人子句の  
撰一やうの所るるを  
此の序を此の序とす

家名のうけに  
海春の秋意のよき  
石の詠を水く  
以て残し  
此の詠を  
此の詠を  
なす

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

悟一葉卷之上

芭蕉菴忠青著

蓮乃莖

連次誹諧より小附合肌の事より秘受  
ありお向とれきすくまうとふかき  
くまうとれきぬやうしあふい  
かき向くまうとれかきりきり  
向へあうまうとれ不和のめわんか  
こくまうとれきすくまうとれ

ちりりとも一向野嬖ートトとあるその向を  
 此の海うらうらとく花さく思事にかりぬ  
 魚ーとくり幾くこ海かみひらりて  
 めきりそくに海ゆめきこまるとたえく  
 とむ蓮乃茎と引折る見へーとま  
 とまやまーとまをそ乃ひくまゆ  
 とれーとのとく折越とのう続お向乃  
 めろびをひらる蓮れくま切ーと  
 ちりりすとく縁れ言葉め海くか

け寄治合乃りつとまのひらりて  
 道れ秘事やすれ可む可賞

五尺此曹蒲

一向乃志ーとまのひらりて  
 うけまらひひのひらりて地水よりすりて  
 ちりりひらりてまらりてにらりて海家事  
 ちりりまらりて高くけりーとまらりて  
 とまらりてまらりてひらりてたうら

秋乃程

秋乃程

予はぬ所し寐くくきき予起く  
ハ海とひわ家とのなり昼東西南北と  
見く動くその内目當乃柱一平臥  
く覺へて起ししをりあははは  
わき及東西ハあきものまりう乃とく  
若向此すり可成とく吟く返く  
其主と能所と求め也

乞食の囊

乞食れもくろハ物とけきぬりのきり

物とくくつたあはぬ家りはく魂分多日  
とけふらゆりハ収めく用は遠くえ  
り分く用ゆ欲道乃學問ハ其不同  
わらゆ家所の世事ハくやまよのくさ  
ましく見ゆきまわく月也ハ兼よらに  
ら杯とくわくくろふハ其く書回  
庵

人乃の海と場

人のふりし七穴二眉そかりし中にあ

乃く〜あ〜ふの大小長短也此是白目  
 口にきやう 鼻此つさやうとふよるもの也  
 連次詠諧に終ふ実そ〜ん十七十四も  
 文字かとも〜つ〜次寄せ合綴言〜くも  
 同物すれ〜と共うらも爾於葉は〜と  
 へ此向乃りやうに〜り〜く作ありと古  
 〜りやあ〜〜きれ事〜ら〜〜りす  
 さま〜) 半據も〜れ〜り〜〜紙〜〜横  
 下り鼻此つさ〜を〜〜〜目つ〜さ〜〜心

のふ〜

右又件乃にりし幾ハ連詠の名目宗通  
 此覚悟と人幾〜事〜り〜道〜り詠の  
 制

一打越乃事

秀句 打越り 秀句のひ〜らふゆ〜  
 秀句のひ〜らふゆ〜  
 じ〜ひ向ひひも じ〜ひ向秀句のひ  
 じ〜乃向次の向あ〜く受ふハ〜〜打越

わ

一言にりきくかんかほく事なるの事  
 事りおきしこ當世備誦の事りしこ為葉  
 此文字乃かか義理しこわえりす  
 かんかつけ文字めくあゆとさうと事  
 第一比真乃いさりなり  
 一誦言と音夢にしくはふ事好ゆり  
 比誦具あきしくし合乃向りしこ  
 親子兄弟貴人高位此なりさあふもあ

ものすこハ悉ろしんすもや事事あの  
 びるりす

一故事乃事うの事と少くも向ゆり  
 事りハ——楊貴妃照君剛明孔明を  
 一——出——其名成——其可成事  
 次乃向此和魔を人——

一讀して覺るは故事なり出——座  
 一——そのりけりひりも——對のひり  
 一——はと第一赤面を人成なり



一初部よりふしつ後り人こくまりる世の  
 へのひ出しくと科もあるましつゆしく近年も  
 こころりしつ果あつた一向盲誂れ業つる  
 一花も度おしつ引めましく花乃句最  
 と乃尾筆まゝ  
 一難句やぶしつ一庭の危もつけあくとそ  
 侍かふはつてつと知つるふへ  
 一長短此句よりふりひつあつるへいをしつ  
 ましつ心敬僧都と連誂りつ篇序頌曲流

と當一にひひ無道の前句篇序頌つるへ  
 附句曲流ごん均等しつ誂あつていへは篇冠  
 五文字序肩七文字 題 腰五文字 曲 裾七文字  
 流 当七文字つる 連誂りつる前句篇序頌  
 と此句下つ句まかつりかしつ附句曲流  
 お句曲流つる後ハ附句篇序頌ごん均等しつ  
 一二と挙つたつるつる左乃しつ  
 前句曲流つる 落着あり 返しつる田瓜ゆつる返す  
 附句篇序頌つる 右まの根とつる 足裏此つる外緒の契つる

又

<sup>上方句</sup>前句曲流此心之 <sup>落着きり</sup> 面けり乃遠くさう社此しき

附句篇序類此心 右のまよひとよ 花月乃中よくれの

右のまよひ曲流くともゆくす篇序類く

さしゆくすお向ひおうきくハ附句あく

とけりお向とりきくハ附句とてひ

かまへし句ふひつあさハ味ある

たとく篇ハくくくくくくハ中さ

きのひさま題ハ文とやのさま曲き大と

さりしよさま流ハ成就しきくさま

一前句親句より曲親句さまハ附句疎

句さまハ親句とりよハ志くハ中さ

くさまハさまハ向疎句とけき實試

えにくさまハさまハ向親ハ縁

言ハさまハ相さかさハ向疎

ハ前句とけさまハ向とて向さり

一連歌乃さまハ定まき後鳥羽院乃

沖都さまハさまハ連誅さ

多しあありん建保名比とや又式目此定也  
 然と後宇多院建治二年かまうふおわて  
 藤谷為相の作なりとや建保より六十三  
 年後より新式の應安の法三百餘ありと  
 なり今案新式追加の文龜此比建治院履  
 相談牡丹并追加をきんく年来ひと  
 一後之誹諧ハナレ後連歌乃席より  
 多し又七句十句とつをわひねし  
 誹諧平と續歌より志し後よりとて連

哥乃式目よりやもと来ふとのなり誹  
 諧歌れは後とつと誹諧名連歌といぬ  
 そのよりまたハ又十句百句とつをきりハ  
 之と宗温貞徳より連歌乃式とつり  
 大統彼津傘立圍うとふひれより事起  
 つとびり名誹諧一二と挙く

紅葉とりの夢やふかしくかき綿 仙吟  
 子種乃中虫より花此あす世 宗長  
 山の端ふ白四行きの月出さず 宗祇

しし 紹巴亭少く連歌満座此のらけ  
しし 菓子出を徒に

しし 鳥此けししあしす歌りて去首

朽木乃本よこと系友也 紹巴

燈とそり板戸の姉一抜多 昌叱

かく此ししを連歌と本としてあは

やうしく句真ありしし入さ事之誦

誦とらゆき歌ハ何りとも連歌と屋少系

誦諧ハありゆしと世盲誦師誦諧々介の

やうににし不便なり

一面を句うら四句めありししうらうら

こりし事一發句脇身ニましくしひありし

西と四句めありししうらうら誦くしを

ましくしりしと八句此うら身三句六句

六句七句八句まて誦ぬやうにし事入秘事

あり

一無の而着しり事一句とらうらしあ句

（とのしす五七五七、此教わひきれしうの

冠のりふきしめあまり移りこもつてあつたふ  
 なる所より地やまひのりかくしてかくとさ  
 かくしてとさふさる貴かしく正体とよとれ  
 前向ふよりさ移りて此やまひあり  
 一籍乃向こりふ事一句乃より用たりそ  
 習器財道具物の名をい出しそり丸念と  
 言ふ事りそま向かり秀向じとひ向と  
 之理よりひとそゆと籍乃向よりそ  
 かりあつてなり

一冠よりす袴きす皆よりすとりふ事り  
 冠よりすより上此又文字中の七文字へ用  
 せしかかぬ事あり  
 袴きすより上乃又文字下乃又文字り  
 綴あはしと中の七文字用たりそゆ事  
 皆よりすより又文字七文字と連続しとれ  
 とと下此五文字用ふそ習事あり  
 冠よりす ちる病乃とこれぬ袖へ恨あ事  
 袴きす 我常よりより心はむて

皆よりす 取口とすもすく人乃仲津每  
 右より分別ありて一病とに多事と  
 一自他乃句是別肝要なり前句を自乃  
 我身より附句他乃人此と句又文字ハ自此  
 句七又ハ他乃句なり

「自」  
 障子乃うらふ見ゆるとり火  
 炎すふ家皮切ちる  
 細乃と女子世さる人如き都

右此句 障子の句より  
 句とん此句均と一とくお句とく  
 のことく 何人後事なり

一同意とり事 前此句と附句とて釋  
 一とく是此句沈思乃う人おれ事なり  
 么均へ

風と善せぬ去れさひー左  
 雨と家夕山くも長閑あり  
 木那ーありあり

かく此とくうらさききり可ハくさるう  
すれはとも悉皆前句とくうらへく唱へ  
かありん

一有文無文といふ事

ありはれあやむるといふ事と有文作と名  
つがそくくひくえんにのくあさあそ  
まもあきくいとぬう後乃に初ひあそ  
ありきり句すんくく句作ひつあか  
きりよよ繋くくひ結く人よささ結

やいふ分けりりれ秀逸なり

無文作とあやなれさといふ事すり句  
ゆりにもひりきり家にもひりさ結ん  
ひひ盡くくことりあはくみともあ味  
くよあは可もすくく形のねりひ美と  
一れくの包判形あはれやうまりんせ  
か

一我句と人くくきくくぬくく所  
あくくハく皆あきくく自句ハくくく

今およそのそりたゞく口編喧嘩の  
おとそもさだとしそりとおよそら  
し非かほくそ

一お向り付の事花向と顔みして葉と  
争し前向乃と紫しすり白と仰く  
かとお終しゆ家事一句乃精要と  
しん第一う此次乃向つさくたとの也  
一連舞のあゆまらへ自向と遺言と思  
唱へし人乃遺言しあとの所へ

ういさいうやう此悪人さつとぬとの  
そりたゞくいやしと自向れあつたぬ  
そ高唐乃赤面す

二向らむ向と覚悟をへしつひの  
久そりとも本人乃面目れく死向  
しゆし活向死向くあり活向ハお  
へ脈争し疾向ハ赤人氣血かよふす

一脇乃白韻字をそり當世白と黒と  
炭源され類と韻字とわらわら活詠師



わりの下乃うこくハハホホホ  
 七ホホホホホホホホホホ  
 此四乃ホホホホホホホホ  
 少ホホホホホホホホホホ  
 く脇のホホホホホホホホ  
 くとホホホホホホホホ  
 脇乃韻字局乃證祿連の初  
 拾遺集一ノ中將一ノ中將  
 源致方羽信のホホホホホホ

つるもてこく

流俗ホホホホホホホホ  
右人將 實深

孫重ホホホホホホホホ  
 致方羽信

ホホホホホホホホホホ  
 不

ホホホホホ

ホホホホホホホホ  
天曆帝

ホホホホホホホホ

夢一ノホホホホホホ  
去侍

ホホホホホホホホ

と發句くもせせりつを五句三句七句  
 介とあくとる一宗鑑貞徳立園介とより  
 制とかくりり一せう一いまと二ツとの  
 介と教とよにハ賜ておは留第ニ韻字  
 留とともお承あくと留れもわり百  
 韻奇仙介と一巻にしてはせ勢事より  
 最近世乃制すれとも此道と好ひ合ふ  
 久昔れ一

一面と句序此序之乃折破名妙乃折

表たり初折二乃折位一之の折よく  
 一折とく名妙此折して句早よとく  
 一折へ一こそ百韻乃法より今附の言排  
 初折もよわけ事とよひ名妙乃折一  
 一折とよよとわわ折事とよひ出して  
 一折と移入一長短此點引く由とん  
 一音衆音とひくとわとつ心  
 一折傘とあひ乃説のほふ誰とあくと  
 一折人倫より世に折の方とてハ居而

せとをしく申らうくろ事とつた乃  
 許し用ゆり者何ものそ宗徳宗徳貞徳  
 立圃あひのかささそと常とくひとあるし  
 鼠算かしくとや連哥りしにわくろ新式  
 無言抄玉寶抄そとと誹借少くハ河傘  
 とかひ等乃法度とそと守るへしたとひ  
 わかまりわりとそと先師れり久あれた事  
 きたるしそと思ひく私乃見込あそと願う  
 す

一三句れそとそと乃事たのうろくそとそとに  
 実ありてひへしひりそとそとそと途の海  
 たりたりあふまりさそとふそとりそとまりす  
 うそとそと無乃句おほくそとそとそとそと  
 そとそと二句少くそとそとそとそとそとそと  
 おろりそとそとぬハ此限そとそとそと  
 一神徳釈教そとそとそと傷三句そとそとそと  
 そとそと一句そとそとそとそとそとそとそと  
 きそとそとそとそとそとそとそとそとそと

にそとくそり無一句少くとも中より  
やとめ悉く不吉な中へ

一見後一留一一同字せむらう一浦山里  
水本草字の類一二と著く去るも三句四句  
行とあくは亦察留見一懐紙つと  
てかんまうなり

一得な此あきやうにさうらう一疾とんかあ  
一言葉とよとくうの一疾事此句ふ  
ハ此文のあき瓜又へさくおし人の業此と

くうれと業をひ出もか一疾とんかあ  
根不便の事んさう乃敵とくつと  
ひへ

一点丸乃事志りく切者此うの事あ  
と不切の敵と志わくこのあは句といや  
あく正体なく一説なく行を新し  
其子細冬人の事とくまう民さあ  
ひか一あは句とて一まう古人の句  
少うりそ然とく誦賦とすん人

誠真ありたゞの度毎よりそのれはとく  
 人となりしわさび幾くしゆとてしゆとてわ  
 和歌乃神志真意にそはるしとたゞ人等  
 見の的とわたりしお形一可ふもく失あさ  
 目よりとてとてあしくそしひかく見り  
 今つらば射もといとまじや標の弓ひき  
 ぞしつひかき

一發向ひそそくも返こめし能向すしと  
 船色そ乃やゆましく附へし芽三右風景

ちとくもくしとてあしとて大く芽三の共  
 卷乃其路とん均へし一發向脇すくは春の  
 位芽三あしく括圓大はれん得る人し  
 一十倅乃しと強力倅拉鬼体とそあしと  
 こ乃二ツ骨とぬしと余信紙とそ種を  
 子の類をり

故郷有母秋風涙旅館無人暮雨鬼  
 おのひ出をそしとれとのとあしとそ  
 きはれまゝ雲乃あしとのやまうけ

このあつた乃詩歌と京極黄門定家廿十  
 体乃同拉鬼体へ入る事ありあり難き  
 事なり玉格とありそまぬ有るはそく由  
 一紙第一とて人其事よむ其言体も心  
 體も高体濃體麗体面白体下然体一  
 節体写古体強力体こ乃十体とてし  
 微とそまへたれたまうわたり

一平意と其ふと云事一急事常々傷等  
 此事し向はねあむむこくハ人々本意と

そひく事かほへたれものなり人乃其  
 と多ぬとくゆり人乃老派にうり  
 事一の類ありあきとくかそぬ魚うん

一初ふ乃人附向ともふは上よれお越と附  
 於やうふ其場と業と人上よれ句ハ五  
 理不記ゆへ三句へ海ぬものなり上よ  
 乃次ハ五紙よをれとと六まはくそらと  
 一の平意はあつそひつそく量那  
 一難句と人とにひ附向とこゆり所と

へ少乃よりわくと付へし幽寂又乃に  
 若向とすやとらるる所を沈思する  
 ときひのうき向はらるる所附ひの首  
 とわ子人船すへり何とく付へる向  
 沈思乃とわき向を思ふ向のより難向  
 ふはより所すに思ふ少乃よりあふ先へ  
 つまやりのうし時と後し沈思し  
 めくき向もすに思ふのよりとわき  
 是をたす

一腸より比とすりとも習あり發向の時候  
 と少とすりすともそのなりきと人は  
 何とすに乃發向すへり外なき比  
 向は梅白より比るる小發向乃時候を  
 是とすりすに乃ゆへし初ふ不切  
 此人好もすりて人

一遠急と人幾年あつたり松乃より初舎  
 平しふまき中ああ物あふ春すし乃  
 類婚姻終るりわき此かき林去衣

うとくやる中あつてをよめとて知れり乃  
 賀しを乃身此とて形多寐さあり指  
 たりおとの類加増設替ありし終以祈  
 此事帰糸浮世をさうとて住居をく乃類  
 え服袖箇髪を繕着りきゆふ小ゆさ  
 する此類の子供かよとてく親子乃の  
 かしと鶴乃子の松より心へ形智のま  
 の子乃宿も定め智をよの類新定乃  
 會りもかりうらら形跡をやくはさの

をけりし此類夢想乃をり世の中此後  
 うやゆめとよのちそののじまーゆめ乃  
 後世とて形多ゆめされとて悔しきかとの  
 類進若乃をりうららかた死いふあしく  
 多の世川ゆひひそめてー中其此宿魚乃  
 池の事一切ちこく此うららさうの事い  
 うとてまへト一二と擧ぐあすす月次  
 帝の舎まらりといふとちんともまへいそ  
 むこ乃さうとてくか輪此うららさうこ



のこくふ事あし一産乃うらひさう  
此さうりあはる地もあはるこも風雅れた  
—かまきり

一向口りかまひあはるかまひくひ吟ふ  
すり集りふ吟よりけりや古人といひる  
きり猿丸を更乃さうり

奥少りのみからあまのほろあうらん

—かまきり時う秋をうけり—幾

とすりそとふふりんえを踏て縁へぬ

是れ節り乃にふくすれとも此哥さ  
節りよりふと吟ひとけりすりさうり  
けり縁さききく何乃子細きあさき  
とすり口けふゆさおは幼来乃わうと  
よとえ何の耳りさうりゆふさうん  
まへく誂りふふさうり人さうり事  
さうり事ゆげ外誂借さおひて向と  
求ひく—月花さうりすり定さふもわ  
つさあを前向と—發向さうりてきり

びへー和哥り師子ー公氏師とすと  
 英門定家心も和哥せしきー橙ー  
 一下此巻りー秘秀の女尔松葉とーく  
 くあふす誂字紙么乃好士和哥若林と  
 ろういふー此巻中とへさふや

一百韻真り折面ーひと門乃ものほ  
 折かたれハ七句去如進く子細折ー七句  
 此もの五句去只又句乃ものハ三句去  
 三句乃ものハ二句去折越是ゆりさすん

つまも折かたれとさー合かろささり  
 和漢漢和乃ー七句ハ又句五句ハ三  
 句三句と二句折越ハ式目れふとーと新式  
 事り事り志らく幾もの事りゆり

